

平成 29 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 29 年 9 月 20 日 (水) 19 時～20 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)
深沢 篤 (みさと接骨院 チーフ)
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 4 名
学校 奥田 久幸 (校長)
岸本 光正 (副校長)
木下 美聡 (フロンティア推進部長)
伊藤 恵里 (副学科長) 計 4 名
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)
鈴木 裕之 (学務グループ兼教務グループ職員) 計 2 名
合計 10 名、敬称略

【欠席】委員 佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長) 計 1 名

< 議題 >

前回いただいた意見の活用状況として、臨床力向上、就職先の管理についての報告がなされた。

学校経営業績重要指標の進捗状況がなされた。

定量目標である「退学・除籍率」「就職率」「定員充足率」「国試合格率」における第 1 四半期の進捗状況を説明し、意見交換した。

自己評価報告書について、昨年と比較して評価に変更があったものについて報告した。

(委員の意見／質問)

- ・学校経営は大事だが、一定の合格率を担保するが養成校の義務である。
今後はカリキュラムの改定も含めて、国家試験は難化傾向にあるので、今以上の努力が必要である。

(学校の回答)

今までは学生の自主性に任せて勉強させたことで、このような結果となってしまった。

合格率の良い学校の事例検討を行い、学習時間の確保、学習習慣を定着に力を入れて対策を講じる予定である。

(委員の意見／質問)

- ・夜間部の合格見込みの急激な向上は意識面での変化なのか？

(学校の回答)

夜間部は早期から試験に向けて個別対応を行い、功を奏した。昼間部はまだまだ動き出しが遅いので、こちらから学習の機会や補講の実施等で意識させる必要がある。

(委員の意見／質問)

- ・就職希望者数の割合が低いと感じる。他校と比較してどうなのか？

(学校の回答)

- ・学生の意識として、資格を取ってから就職活動を考えている学生や、柔道整復師として就職を希望しない在学生が一定層いた。鍼灸学科については、すでに柔道整復師の資格を持っている学生もいる。

また、在学時からの就職先に引き続き就労するケースなどもあるので、就職希望者の定義について不十分な点もある。年齢層についてもアプローチが変わるので、その点については課題として感じる。

(委員の意見／質問)

- ・独立開業コースについては、具体的にはどのような内容か

(学校の回答)

- ・安易な開業が多く、失敗した卒業生も多く見てきた。開業に対して、経営面の知識を含めて教える場として設定したい。

(委員の意見)

- ・国試対策として個別対応は大事だが、時には厳しく全体に向けてアプローチし、扇動していく必要がある。あくまで学習するのは学生なので、きちんと学習できる態度・やる気を引き出すことが大事。
- ・業界フェスタでは、多数の企業が参加しているようだが、学生の就職先として、学校側が見極めた上で、フェスタへの参加許可を出すようにすべき。

(学校の回答)

- ・教員で企業のチェックはするようにしている。今後も継続し、学生の就職先に相応しい企業の参加のみ受けつけることとする。

(委員の意見)

- ・コンプライアンスの一環として、年1回インターネット上でのストレスチェックの受診を実施している。簡単なところからでも実施はできるので、導入してみたらどうか。

以上

平成 29 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 29 年 9 月 21 日（木） 15 時～16 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員	菊池 優子	（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	藤原 良次	（株式会社アールエフ 代表取締役）	
	前田 真也	（カリスタ株式会社 代表取締役）	
	前田 千尋	（カリスタ株式会社 院長）	
	鈴木 幸次郎	（日本内経医学会 運営委員）	計 5 名
学校	奥田 久幸	（校長）	
	岸本 光正	（副校長）	
	青木 春美	（学科長）	
	三村 聡	（学科教員、議長）	
	渡邊 靖弘	（学科教員）	計 5 名
事務局	鈴木 裕之	（学務グループ兼教務グループ）	計 1 名
	合計 11 名、敬称略		

【欠席】事務局 大友 員彦 （事務部長代行）

< 議題 >

学校経営業績重要指標の進捗状況がなされた。

定量目標である「退学・除籍率」「就職率」「定員充足率」「国試合格率」における第 1 四半期の進捗状況を説明し、意見交換した。

自己評価報告書について、昨年と比較して評価に変更があったものについて報告した。

（委員からの意見）

- ・夜間部の合格率の低さというのは、昼間の仕事の都合か。

（学校の回答）

- ・勉強する時間をいかに取れるかというのが重要となっている。昨年度は最終学年のクラスの雰囲気良好でなく、団結しての学習環境形成に難渋した部分も合格率に起因していると感じている。

(委員からの意見)

- ・ 国家試験について卒業試験等は実施しているのか。

(学校の回答)

- ・ 国試を受けさせるための試験は実施していない。
単位を取得した学生は全員国家試験を受験してもらっている。

(委員からの意見)

- ・ 退学者の年齢層はどうか。

(学校の回答)

- ・ 若い人のほうが割合として多い傾向がある。理由は人間関係や学力が追い付かなかった等。
高い年齢層でも、仕事の都合や親の介護、様々な事情がある。

(委員からの意見)

- ・ 就職を希望しない層が多いことについての、課題意識はあるか。

(学校の回答)

- ・ 入学生の需要が多様化しており、鍼灸師として働きたいから資格を取りたいと思う層が少なくなった。職業としてではなく、趣味として資格を取る層も一定層存在している。

(委員からの意見)

- ・ 中長期的な目標としてはどのようなになっているか。

(学校の回答)

- ・ 6年後のあるべき姿についてビジョンを定めて、それに基づいて中期事業計画を策定しており、毎年見直しをしている。

以上

平成 29 年度 第2回 学校関係者評価委員会(柔道整復学科)議事録

【日時】平成 30 年 2 月 14 日 (水) 19 時～20 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員 伊藤 述史 (公益社団法人東京都柔道整復師会 会長)
小泉 利幸 (三進興産 営業部長)
佐藤 和伸 (佐藤代田整骨院 院長)
道狭 浩子 (ひろこ整骨治療室 院長) 計 4 名
学校 奥田 久幸 (校長)
岸本 光正 (副校長)
木下 美聡 (フロンティア推進部長)
伊藤 恵里 (副学科長) 計 4 名
事務局 大友 員彦 (事務部長代行)
鈴木 裕之 (学務グループ兼教務グループ職員) 計 2 名
合計 11 名、敬称略

【欠席】委員 深沢 篤 (みさと接骨院 チーフ) 計 1 名

< 議題 >

前回いただいた意見の活用状況を報告したコンプライアンスの取組として、引き続き導入に向けて検討する。

学校経営業績重要指標の進捗状況がなされた。

定量目標である「退学・除籍率」「就職率」「定員充足率」「国試合格率」における第 3 四半期の進捗状況を説明し、意見交換した。

(委員の意見／質問)

就職先での定着率について、追跡しての調査はしているのか。

また、具体的なアプローチ方法はどのように行っているのか。

(学校の回答)

継続しての調査ができるよう、キャリアマップを導入した。まだ初年度なので、結果は出していないが引き続き調査していきたい。

全体にアプローチはできてない。キャリアマップはスマートフォンにも対応しているので、今後の卒業生との連絡ツールとしての活用も今後期待している。

(委員の意見／質問)

①開業する、②開業しない、③別の業界で働く の3通りの道があると思う。

ただ就職させるのではなく、各分野への就職を交えたキャリア支援が必要ではないか。一様の対応ではなく、見極めて各々を誘導することも必要だと感じている。

(学校の回答)

アンケートを基に、より希望に沿った進路が案内できるよう、個別対応に力を入れていきたい。

(委員の意見／質問)

- ・定員に対する国家試験の受験者数をみると、退学者が多いように見受けられる。

(学校の回答)

- ・退学者・除籍者は全国平均よりも低い数値で推移しているが、休学者、留年者もいるので、実際の定員よりも少なくなっている。

以上

平成 29 年度 第2回 学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】平成 30 年 2 月 15 日（木） 15 時～16 時

【場所】日本医学柔整鍼灸専門学校 本校舎 001 教室

【出席】委員	菊池 優子	（貴子鍼灸治療室 副院長）	
	藤原 良次	（株式会社アールエフ 代表取締役）	
	前田 真也	（カリスタ株式会社 代表取締役）	
	前田 千尋	（カリスタ株式会社 院長）	
	鈴木 幸次郎	（日本内経医学会 運営委員）	計 5 名
学校	奥田 久幸	（校長）	
	岸本 光正	（副校長）	
	青木 春美	（学科長）	
	三村 聡	（学科教員、議長）	
	渡邊 靖弘	（学科教員）	計 5 名
事務局	大友 員彦	（事務部長代行）	
	鈴木 裕之	（学務グループ兼教務グループ）	計 1 名
	合計 11 名、敬称略		

< 議題 >

学校経営業績重要指標の進捗状況がなされた。

定量目標である「退学・除籍率」「就職率」「定員充足率」「国試合格率」における第 3 四半期の進捗状況を説明し、意見交換した。

（委員からの意見）

就職希望者増加に対しての対策はしているのか
就職率 2 の目標設定は適切なのか。

（学校の回答）

現職を続けながら趣味として取る層が一定層あったが、訪問などでも少しの時間でかかわる仕事があるので、鍼灸が仕事に結びつくようなアプローチをマインドから養成する予定。

(委員からの意見)

外部の就職支援を利用する場合は、手数料が発生するので、学生の不利益にならないように注意する必要がある。

(委員からの意見)

正解率が60%以下の問題は、成績上位者も間違えている可能性がある。基礎的な知識が不足している学生には、もう少し正解率が高い問題や、各自に正答してほしい問題を中心に集めたらどうか。

(学校の回答)

参考にし、今後の国試対策に活かしたい。

(委員からの意見)

高校生はターゲットにしていないのか。

(学校の回答)

現役生の中退率が悪いので、高校生は意欲の高い人をターゲットとしている。

(委員からの意見)

競合校でも美容鍼灸のアピールが多くなってきている。

スポーツ現場では、アスレティックトレーナー、理学療法士、柔道整復師、鍼灸師という中で、鍼灸師は唯一鍼が打てる立場なので、その点をアピールしたらどうか。

手厚くサポートも必要だが、「教員の受け身でなった鍼灸師」と「自分からなりたくてなった鍼灸師」では働きに出てからの姿勢が全然違う。ここまでのサポートをしていることを学生に周知させることも必要だと思う。学生が「されて当たり前」の姿勢になっていると危険である。

モチベーション向上のためのインターン先として、委員の施設を活用してはどうか。

以上